

## 平成 23 年度 園外実習レポート その2

漁船に乗る（漁業者になる）ためには、船や機関（エンジン）の操船や運転に関する知識や技術を習得することは勿論ですが、同時に基礎体力や同僚との協調性を身につけることも非常に重要です。そのため、当学園ではカッター（端艇）や遠泳、マラソンなどの各種訓練にも力を入れています。今年も、最初の訓練として、カッター訓練（遠漕）を実施しました。

### 1 カッター訓練（遠漕）

5月中旬から6月上旬にかけて、午後の実習として3時間弱にわたり、カッター（9m・12名用）訓練を実施しました。小中学校の臨海教室などで経験済の生徒も多少はいますが、ほとんどの生徒は初体験です。しかも、小中学校時代と違い約10kgもある木製の重いオール（櫂）を1人で漕がなければならず、また、漕ぎ手全員のタイミングが合わなければ思うように進むこともできないため、かなりの重労働です。大抵の生徒はすぐに手のまめがつぶれてしまいます。それでも、音をあげる生徒はほとんどなく、大きな掛け声に合わせて漕いでいます。

訓練最終日の6月9日（木）には、約5マイル（10km程度）離れた、静岡市用宗漁港までの遠漕に挑戦しましたが、その頃には息のあったオールさばきとなり、生徒間の協調性もよりいっそう高まった？ようです。



焼津港沖を遠漕中



大崩沖を遠漕中



用宗港へ到着

### 2 静岡県温水利用研究センター視察

6月14日（火）、第3回目の園外視察として、御前崎市にある「県温水利用研究センター」に行ってきました。ここは、中部電力(株)浜岡原子力発電所からの温排水を水産分野で有効利用するために作られた施設で、栽培漁業や養殖用に魚介類の種苗（稚魚など）を生産しています。

視察では、稲葉所長よりスライド映像を使った説明を受け、施設の概要や種苗生産の様子、日頃の苦労話など、現場の生の声を聞くことができました。また、種苗への感染症予防のため限られたスペースのみでしたが、実際の生産現場も見学することができました。初めて見る餌用のプランクトンや大きな水槽の中をクエやマダイ、ヒラメ等の親魚が所狭しと泳ぎまわる姿は、生徒達には圧巻の光景だったようです。

これから漁業者として、魚を獲ることだけではなく、自分たちの手で育てていく「栽培漁業」についても興味を持って取り組んでもらえたらと思います。



聴講中



親魚水槽の見学



玄関前にて記念撮影

## 平成 23 年度 資格講習レポート その1

### 1 ガスおよびアーク溶接技能講習(6月上旬及び中旬)

遠洋漁船は、洋上での修理等に利用するためガス溶接機やアーク溶接機を備え付けています。そのため海技試験（機関）にも溶接の問題が出題されます。

学園では、清水技術専門学校（静岡市清水区楠）の協力により、会場をお借りして講義及び実技実習をお願いしています。そして終了試験に合格した者には技能講習修了証が発行されます。

取り扱いをまちがえると大事故にもなりかねない溶接作業ですので、生徒たちも真剣なまなざしで聴講し、実習に臨みます。最初はこわごわ触っていた溶接機ですが、何度も作業を繰り返すうちに溶接のおもしろさが分かってきて、時間がたつのも忘れ、気がついた時は規定の時間が終わっていました。

もしも、洋上で溶接・切断作業をする機会があっても、あわてず、安全にしっかりと作業することができるようになりました。



講義中



ガス溶接作業



アーク溶接作業

### 今後の予定

#### \* 水泳訓練(遠泳)

6月下旬～7月中旬

プール及び海水浴場における水泳練習  
沼津市戸田港における遠泳大会

#### \* スクーバダイビング認定講習

7月中旬

ダイビングスクール協会による認定講習  
(OPEN WATER DAIVER)  
沼津市大瀬崎における実習

#### \* 夏休み

7月下旬から8月下旬（約1ヶ月）

学園を卒業するとこんな事もできます・・・。

今年は学園でも節電対策として「緑のカーテン」を設置することにしました。そこでポイントとなるのが、蔓が巻くネット。学園では実習の中で網作りをします。ですから、学園の卒業生はこんなネットも自作可能です。因みに、写真のネットは職員製作です。

